

平成29年度 第1回和光市スポーツ推進計画中間見直し委員会 会議録（要録）

- 1 日 時 平成29年9月12日（火）19時00分～20時50分
 2 場 所 和光市役所 6階 602会議室
 3 出席者 11名

委員名	選任の区分	備考
○飯田 路佳	第1号委員 (学識経験を有する者)	十文字学園女子大学人間生活学部 健康栄養学科
山下 玲		学校法人東洋大学ライフデザイン学部 健康スポーツ学科
山崎 正治	第2号委員 (市内関係団体を代表する者)	和光市体育協会
◎朽木 亮		和光市スポーツ推進委員連絡協議会
下島 幸泰		和光市スポーツ少年団本部
西 貴美雄		和光市小中学校長会
富澤 甚五郎		和光市身体障害者福祉会
清水 武		和光市生きいきクラブ連合会
大川 義視 (代理出席)		東上地区私立幼稚園協会 和光支部
浅黄 祐樹	第3号委員 (公募による市民)	
濱田 賢一		

◎委員長 ○副委員長

（事務局）スポーツ青少年課 亀井課長、庄課長補佐、野口統括主査、力石主任

4 傍聴者 なし

委嘱式・あいさつ

- ・委嘱式
- ・教育長あいさつ

議題1 スポーツ推進計画について

議題2 計画見直しのスケジュールについて

議題3 国県の動向について

事務局説明

資料1 スポーツ推進計画概要版

資料2 スポーツ推進計画見直しスケジュール

資料3 第2期スポーツ基本計画のポイント

資料4 新たな埼玉県スポーツ推進計画の策定について

【委員長】何か質問等はあるか。

【一同】なし。

議題 4 スポーツ推進計画の進捗状況について

事務局説明

資料5-1 スポーツ・レクリエーション活動に関するアンケート調査結果

資料5-2 スポーツ・レクリエーション活動に関する市民意識調査結果

資料6 和光市スポーツ推進計画 進捗状況

▼数値目標の進捗状況について

【副委員長】平成28年度は全体として当初の数値より低くなっているように感じるが、何か理由があるか。

【事務局】個別に減っているものが影響している。⑩の子育て支援センター等で行うスポーツ関連事業数については、子育て支援センターの機能が、子ども向けのイベント等の事業ではなく、相談事業に変わったため、数が減っている。⑭の公民館3館の体育室の年間利用者数については、平成27年度に、公共施設の中で一部休館があり、その利用者が公民館を利用したため、この年度だけ数字が増えている。実際には、平成26年度と28年度の53,000人ぐらいで推移しているのではないか。

【委員長】公民館の使用料が変わったことは影響しているか。

【事務局】平成26年度と27年度で変更はしていないので、影響はない。

▼週に1回以上スポーツをする人の割合等について

【浅黄委員】週に1回以上スポーツをする人の割合について、埼玉県は上がっているが、和光市は下がっている。他の市町村で上がっているとして、その理由等について把握しているか。

【事務局】他市町村の具体的な事例はないが、全国の各学校で行っている新体力テストというものがある。埼玉県は全国の中ではテストの結果が高い。和光市は、県内では低い方であるとのことである。他の市町村では、体力向上のための特別な取り組みをしていて、スポーツをする頻度が高いのかもしれない。

【浅黄委員】スポーツをする頻度について、前回の調査と比較して変わっているのか。また、全くスポーツをしない人について、どの世代がスポーツをやっていないのか把握しているか。

【事務局】前回のアンケートでは、全くスポーツをしない人は50%、今回は53.2%であり、ほぼ横ばいである。また、スポーツをしない世代について、年齢でクロス集計したが、どの世代もあまり変わりはない。

▼下新倉小学校の学校開放について

【山崎委員】下新倉小の稼働率が低いとあるが、何か原因があるのか。

【事務局】下新倉小以外の小学校の土日の稼働率は、ほぼ100%である。一方、下新倉小は、ばらつきはあるが、50%を切っている現状である。原因として考えられることは、他の学校に比べ駅から離れていることが挙げられる

のではない。

▼障害者のスポーツ参加について

【委員長】パラリンピックが2020年にある。障害者のスポーツ人口について、以前と比べてどうか。

【富澤委員】私達の団体は、高齢者が多い。それは、そもそも若い人は自分が障害者であることを表に出したくない人が多いからである。障害者によるチャレンジスポーツ大会を毎年行っていて、市内の多くの障害者に案内を出しているが、参加する人は本当に少ない。

▼スポーツの定義について

【山下委員】調査をするときに、調査票等にスポーツの定義を記載したか。

【事務局】競技スポーツとレクリエーションスポーツの解説は入れているが、スポーツの定義は掲載していない。

【山下委員】さいたま市では、自宅から駅に歩くこともスポーツとして捉えている印象を受ける。また、自転車による買い物等もスポーツに入れている。そのためかは分からないが、全くスポーツをしていない人の割合も低い。この点から、スポーツの考え方を調査に入れれば、数値も変わるのではないか。

【下島委員】駅まで歩くことは運動と思っていたが、スポーツと捉えてはいなかった。今回は中間見直しであり、ここで定義をし直し、各市町村等との調整を図ることよりは、前回と今回の経年比較の方が説得力がある。ただし、前回と比較すると、同じような傾向があるため、これが和光市の人達のスポーツ習慣を表しているのではないか。約50%がスポーツをしない現状は、深刻な問題であり、もう少しスポーツする人を増やさなければならない。

▼子ども対象アンケートにおける設問について

【下島委員】子ども対象のアンケートで、健康について聞いたことに対し、8割が健康であるという結果であるが、うち25%はどちらかといえば健康であるという回答である。小学生の感覚からすると疑問であり、ここに問題があるのではないか。健康であると回答した子どもが6割いるので、この数字をもっと上げるような対策をした方がよい。

【西委員】小学5年生は健康か健康でないかの2択であれば、ほとんどの児童が健康であると答えるはずである。「どちらかといえば」という細かい区分となると、この前病気したことや医者に行ったことを考えてしまい、「どちらかといえば」に丸を付けてしまう児童が多いのではないか。

議題5 見直しの方向性について

事務局説明

資料7 第1回和光市スポーツ推進計画中間見直し庁内委員会 結果まとめ

資料8 見直しの論点について

▼するスポーツについて

【山崎委員】かけっこ教室は、体育協会として小学生を対象に毎年実施している。申し込みの電話が殺到するほどの人気である。また、毎年11月にスポーツ体験フェスタを実施しており、体育協会の加盟団体が総合体育館と運動場を使って、普段体験できないようなスポーツの体験を提供している。これが、するスポーツのきっかけになればと考えている。

【下島委員】山崎委員がおっしゃるように体育協会では、様々なスポーツ事業を行っているが、かけっこ教室や水泳教室、スキー教室のようなスポーツ教室の人気があがる。つまり、「するスポーツ」よりも「習うスポーツ」の方がニーズと合っているのではないかと。特に、親世代は、子どもを預けて、技能を獲得させたいという志向が強いのではないかと。

【副委員長】先日、ラジオでスポーツ庁の鈴木庁官が、歩くことや散歩もスポーツの定義とすると話していた。論点1で、忙しくて時間がない人でもできるスポーツの提案とあるが、私は高齢者施設で認知症に対する運動を担当していた。中高年で人数が集まるイベントは、認知症予防である。ちなみに、昔はメタボ予防の人気があった。今は、認知症予防や脳トレである。4年前と比べて、社会が移り変わってきている。資料の中に、公園を活用した健康づくりとあるが、スポーツにおいても健康づくりという視点を持ちながら、人に呼びかけることが必要ではないかと。

また、筑波大学の先生が行った調査では、全国どの地域でも7割の人が、運動は嫌いというデータがある。どのようなアプローチをしても嫌いだから、情報を入れなくなってしまう。和光市の調査で、前回とデータが変わらなく、スポーツをしない人の割合が変わらないのであれば、これはある意味合っている。その人達が動かない状況というものが実際にある。これを前提として、そのような人達に対し、歩くことや散歩でも良いと思えるような呼びかけが大切ではないかと。

また、運動嫌いの中には、球技は他の人に迷惑をかけるから嫌いという人もいる。このように、データも様々な角度から見て、解決策を検討していくことが必要である。

【濱田委員】忙しいことを理由にして、あえてやらない人もいないのではないかと。例えば、私は1歳の子どもがいて、平日も土日も育児も家事も行っているが、スポーツはやりたいため、時間をつくってスポーツをしている。忙しいことが、スポーツをしない本当の理由かは疑問である。やりたくても場所を探すことができない、探す時間がないこともやらない理由となっている。忙しくて時間がないという部分の深堀も必要ではないかと。場所の情報提供をすれば

一步踏み出せるかもしれない。

▼観るスポーツについて

【副委員長】スポーツを見て、わくわくしたり、一喜一憂したりすることは、スポーツの1つの魅力である。パブリックビューイングのように、生ではなくても見ることが、スポーツをやらない人達がやるようになるきっかけになるのではないかと。私が関わっている高齢者の例になるが、ダンスでも体操でも習い事をやるときに、雨でも雪でも、その場所に来たことで良かった、すごいということになる。そして、その場所に来たら、運動することよりもみんなで集まってしゃべること自体が目的になっていて、それが効果と言われている。今はソーシャルキャピタルという言葉がキーワードになっているが、スポーツがつなぐ地域の人達との結びつきが出てきている。このような視点の転換が必要ではないか。

【委員長】最近、サッカー等のパブリックビューイングが話題になっている。一緒になって騒ぐ連体感が大きなきっかけになるのではないかと。

【下島委員】8月22日に和光樹林公園で行われた夏期巡回ラジオ体操の参加者が、当初想定の1500人を大きく超え、2000人が集まった。テレビで出ているような「本物」の人に来てもらえれば、市民が集まることが分かった。「本物」に来てもらい、宣伝すれば、人は集まるのではないかと。

【委員長】12月には、総合体育館でアジアエアガン選手権がある。これも期待できるのではないかと。

▼支えるスポーツ

【委員長】ロードレースもスタッフが足りないため、ボランティアの募集をしている。

【山崎委員】中学生から一般の方まで募集している。毎年少しずつ集まっている。

【委員長】ボランティアの方が参加して満足してもらえる環境を作ることも必要である。また、指導者を増やしていくことも大切である。

【富澤委員】ロードレースに3回ぐらい参加したことがある。毎朝、光が丘公園まで走っており、自分の力を試したくなり参加した。疲れていても、「頑張れ！」や「あと何キロですよ！」という沿道の声援がたくさんあり、本当に力になった。

【山下委員】支えるスポーツは、本人の自発性がないといけないもので、強制してやらせることはボランティアとは言えない。アンケートでは、9割がボランティア等に参加したことがないというデータがあるが、そもそもボランティアをしたいとかスポーツを支えたいという意思が市民にあるかを確認する必要がある。参加しやすい仕組みについて、和光市では、ボランティアを募集している共通のホームページ等の情報のプラットフォームはあるか。

【事務局】市のホームページにはないが、社会福祉協議会にはある。しかし、1つにまとまっているフォームはない。

【山下委員】ボランティアをしたい人が、自分で情報を取りに行くためには、ここを見ればすべてのボランティア情報が見られるというプラットフォームを作ることが必要である。これが1つの仕組みになるのではないか。

また、「スポボラネット」というものがあり、様々な市町村のスポーツに関する情報やボランティアの情報を掲載している。そこに和光市のスポーツ情報やボランティア情報を掲載することも1つである。

【副委員長】ボランティアの視点の中に、親子を入れてみてはどうか。幼稚園児とお母さん等との組み合わせで、ロードレースの沿道で声援やバナナを渡す。子どもがいるからできないではなく、どの世代にもあると思うが、支えたいという気持ちがある人を巻き込むことも大切である。

【山崎委員】ロードレースの種目にも、家族で参加できるものもあれば、児童が走るものもある。また、富澤委員もおっしゃっていたが、声援があると気持ち良く走ることができる。当日は市内の子どものチアガールをよんで、声援を送ってもらっている。そうすれば、親御さんも来て、沿道も賑わう。少しずつそういうことを取り入れて、ロードレースを盛り上げている。

議題6 見直し事項の詳細について

事務局説明

資料9 数値目標の修正、補足指標、追加目標について

資料10 計画期間について

資料11 章構成（案）について

▼数値目標の修正、補足指標、追加目標について

【委員長】何か質問等はあるか

【一同】なし。

▼計画期間について

【委員長】事務局としては、修正案1の、計画期間を2年間延長し、現計画期間を9年とし、国の第3期計画の策定後に次期計画を策定する方向で進めたいということであるが、よいか。

【一同】意義なし。

▼章構成（案）について、意見あるか。

【委員長】この案で進めてよいか。

【一同】意義なし。

【委員長】本日の会議で言い足りない部分や意見等があれば、事務局まで出してほしい。以上で会議を終了する。